

芸術祭が始まる

東京藝術大学美術学部絵画科准教授
アーツ前橋チーフキュレーター

みやもと
宮本

たけのり
武典

イズミをさがして 藝大生・田沢陽菜さんの《象る》

東京藝術大学油画^{ゆが}専攻では、桐生をテーマにした研究会を定期的に実施しています。メンバーは大学院生を中心に所属研究室の垣根を越えて集まった20人。皆アーティスト志望ですが、商業的成功よりも旅や文化に関心があるストーリー的なタイプです。各々スケジュールをやりくりして桐生に通い、今年9月に有鄰館で開催する展示会に向けてリサーチを重ねています。

今回紹介する田沢陽菜さんは青森出身。大学院から藝大に入ったので、初回の研究会で自作のプレゼンテーションをしてもらいました。彼女は映像作品を制作しています。準備したモニターに映し出されたのは灰色の海岸。砂浜には畝のような波形が、ある規則性を持って刻まれており、続くシーケンスでは砂に半ば埋まるようにしてスコップを振るう彼女の姿が淡々と記録されています。

「イルカの骨を探していたんです。」と田沢さん。林代海岸でサーフィンをしていた彼女は、漂着したイルカの死骸を見つけ、砂浜に丁寧に埋



林代海岸を掘り続ける田沢さん

葬しました。しばらくして掘り返したのですが、どういわけか一片の骨も見つけられなかったそうです。以来、彼女は海岸を掘り続け、その痕跡はまるで抽象絵画のように地表に波形を描いていきま

彼女の新作は、8年前に未

立ち、このゾウがどこで生まれ、どんな経緯で桐生にたどり着いたのか追跡取材を行っています。



▶田沢陽菜さんの映像作品《象る》(令和6年有鄰館酒蔵)

田沢さんはジャーナリストではありません。イルカもゾウも、おそらくは彼女自身の《内なる旅》の案内人なのでしよう。桐生でイズミと出会えたのは、この若者にとって幸運だったのではと思っています。



アジアゾウのイズミ (平成28年筆者撮影)

パチリいい顔 桐生っ子

市内に居住する3歳まで(申し込み時)の桐生っ子を募集します。
申し込み = Eメール (miryoku@city.kiryu.lg.jp) にお子さんの氏名(ふりがな)、生年月日、住所、保護者氏名、電話番号を記入し、お子さんの画像データを添付のうえ、魅力発信課(☎46-1049)へ。



いちかわ あやめ
市川 絢恵ちゃん
1歳2か月
(相生町一丁目)



まつもと みく
松本 実久ちゃん
4歳3か月
(広沢町三丁目)



まつもと おうき
松本 鳳希ちゃん
2歳
(広沢町三丁目)

広告